

連携先世界遺産：比叡山延暦寺 「お山」の魅力を探る・伝える

Twitterで比叡山に伝わる数々の「伝説」をマンガにして発信。その中で「伝説上のキャラクター」としての最澄さんも紹介。LINEスタンプ化も構想中。

■受講生

平山みどり（京都文教大学4年）
手仲 真唯（京都文教大学3年）
奥野 華奈（京都文教大学2年）
城元 美聡（京都文教大学2年）

川本栄一郎（京都文教大学2年）
大矢 一輝（京都産業大学2年）
チウ エッタイ（京都工芸繊維大学4年）

■担当教員

手嶋英貴（京都文教大学・総合社会学部・教授）

活動目的・概要

京都ではむかしから、たんに「お山」といえば比叡山のことをさすほど、その存在は都のひとびとにとって近いものでした。法然や親鸞、栄西、道元、日蓮など、こんにちの仏教宗派の祖師たちが若き日に学んだことで「日本仏教の母山」ともよばれています。この授業では、比叡山延暦寺より提示される課題をうけて、お山がもつ魅力を現代の大学生ならではの視点から探っていきます。

今年度は、延暦寺さんから「比叡山を開創された伝教大師・最澄上人（766/767～822）の魅力を大学生の視線で探り、その発信手法を提案してほしい」という依頼を受けました。最澄は天台宗の開祖として教科書でも紹介されている有名なお坊さんですが、その人物像までは一般に広く知られていません。しかし比叡山に伝わる文化財や歴史的景観といった世界遺産の構成要素も、開祖である最澄の思想の延長線上にあります。

今回は、比叡山に伝わる数々の「伝説」をマンガで発信し、その中で「伝説上のキャラクター」としての最澄さんも紹介することを提案しました。なおこの活動は、2021年に迎える「最澄上人1200年遠忌」に向けた記念事業プロジェクトと連携するものと位置づけられています。



◆主な活動

2019. 5. 12 世界遺産PBL科目総合ガイダンス
2019. 5. 19 インタビュートレーニング
2019. 6. 1 調査1日目：延暦寺訪問・打合せ
2019. 6. 2 調査2日目：日吉大社や里坊の見学
2019. 6. 16 調査での収集情報の整理、プラン作り
2019. 6. 23 サイト制作準備、役割決めなど

2019. 7. 7 サイト制作状況と改善事項の確認
2019. 7. 14 成果発表資料の確認、サイトの最終調整、予行演習など
2019. 7. 20 京都文教大学での成果発表
2019. 12. 15 キャンパスプラザでの成果発表

活動の成果

Twitterサイト「ミステリアス比叡物語」制作過程



① 延暦寺様でプロジェクトの要望をうかがう

「最澄さんの1200年遠忌が2年後の2021年であり、最澄の魅力を発信をしたい。しかし若い世代は最澄さんのことを知らない人が多い。伝承するために若い世代にも最澄さんのことを知ってもらいたい」というお話を聴きました。そこで「お山の魅力を伝えるとともに最澄の魅力を発信すること」、「若い世代に知ってもらえるもの(身近なもの)を制作する」という二つの課題が浮かび上がってきました。



② アイデアを形にしていく

比叡山には最澄も関わっている伝説が数多く存在します。それを漫画にして親しみやすくすることができるのではないかと考えました。そこで、「Twitterでコマ割りマンガを配信する」「LINEでスタンプ化することで楽しくマンガのシーン使ってもらおう」というアイデアが生まれ、形にしていくことになりました。



③ コンテンツの制作

プロセスは、①「ベースにする伝説を決定」②「4コマ漫画化」③「LINEスタンプ化」と進めました。まず数ある比叡山の伝説から、現代人の心に残る話、かつビジュアル化しやすい話をピックアップ。学生ならではの感性を活かしてマンガ化、スタンプ化します。さらにミーティングでは各自の制作物をチェックしあい、表現に磨きをかけました。そして……

④ Twitterサイトの立ち上げ

いよいよTwitterアカウントを作成し、数点の4コマ漫画を公開しました。ただし、当初予定していたLINEでのスタンプ公開は有料(しかも高額)だということがあり計画が中断。現在もハードルをクリアする方法を模索中です。



変更

ミステリアス比叡物語 ただいまLINEスタンプ作成中
@9CHV3KtZuC9oAC

私たちは大学コンソーシアム京都の授業の一環として比叡山延暦寺の魅力伝えるために比叡山の伝説をモチーフとしたLINEスタンプを作っています「七月下旬第一弾完成予定!」。このアカウントでは新作スタンプ情報とスタンプの元ネタマンガなどをどんどん載せていきます。中の人は少しDM対応が遅れやすいのでご了承ください。

活動を振り返って

【履修生のコメントから】

- フィールドワーク後に様々な意見を各メンバーから出てきたがそれらはとてもおもしろくまた実現できればとても素晴らしいものばかりであった。だがいくつかの提案は比叡山の魅力発信には繋がっていないものもあり。まずそのようなものを削り落とすことが必要であった。しかし削り終えてラインスタンプについての計画を進めようとしたが、まず何から始めてよいかもわからず、無論計画など立てられるような状況ではなかった。しかし各メンバーで疑問点や矛盾点を見つけて一つ一つなくしていくことができたので計画を立て、実行に移すことができるようになった。
- 授業中に個人的に取り組んだのはアイデアから行動起こす事を積極的に提案すること。要するにチームを仕掛けることでした。提案はあくまでも手段であり、目的ではないことを常に頭に入れながら、具体的なプロセスまで取り上げて、皆で話し合っ決めていきます。物事をうまく実現するために、様々なレイヤーや状況を重ね合っていくということを私は授業を通して学びました。
- 最澄さんを若い人たちに伝えることを考えたとき、自分たちが普段から使っているものを使うという発想力は私にはなかった。古いものはそのまま味わうほうが良いと感じる人ももちろんいる。それを押し切って、新しい形にしていくというアイデアに、発想力の柔軟性を感じた。授業ではみんなの意見を聞き、価値観やアイデアをよく考えなおすことができた。そして、もっと自由に発想を膨らませていいのだと気づかされた。

担当教員からのコメント

「お山の魅力」クラスは春学期の半期開講でした。そのため、授業開始から成果の取りまとめまでおよそ2カ月というインテンシブ・コースになりました。さらに、今回ご要望を頂いた最澄上人の魅力紹介というテーマを、世界遺産そのものである比叡山延暦寺を対象とした取組みにどう結び付けるか、教員自身も確固たる方針がない状態でのスタートでした。それでも、履修生たちはTwitterやLINEという身近なツールを活用し、最澄上人の人物と比叡山の魅力の双方を同時に伝えるというグッド・アイデアを生み出してくれました。

惜しむらくは、延暦寺の広大な境内のうち、メジャーなスポットを散策・調査するにとどまったことです。「比叡山の伝説をマンガ化する」というアイデアが出たあと、もしその伝説の現場をも訪問できていれば、お山の歴史と文化の重層性を学生たちに実感してもらえたことでしょうか。可能ならば、お山での現地研修を2回は授業に盛り込みたいものだなあ、と思いました（手嶋英貴）



伝説地のひとつ八王子山



制作活動の一コマ

活動資料

お山の伝説サンプル集

1. 椿堂のはじまり(西塔)

最澄上人が道場をひらく以前に、聖徳太子が比叡山へやって来たことがある。ふもとからお山を見あげた時、山のはしに何かが光っているのを見て、お供の二、三人をつれて山道をよじ登ってきた。そしてある清浄な地を見つけたため、そこに一つお堂を建てて、太子の守り本尊である如意輪観音さまをまつた。

そして、太子は持っていた椿の杖を地面に突き立てて、お山とともに末ながく栄えるように願った。その杖は大きな椿の木になって多くの葉をつけ、いまでも椿堂のそばに茂っている。

2. 白山の姫神さま(東塔・明王堂)

お山の南にある修行場「無動寺谷」を開いた相応和尚(831年～918年)の話である。ある日、根本中堂のお薬師さまから、南の峰に清浄の地があるというお告げを受けた。そこに不動明王をまつた道場を建てたいと思い、山道を歩いていた。すると、とつぜん高貴な女性が現れた。

和尚はおどろいて言った。「このお山は最澄上人がお寺を建てて以来、女の人は登山をかたく禁じられています。あなたはどのようにしてここにいるのですか」

女性は答えて言った。「私はただの女ではありません。白山(石川県・岐阜県)の姫神です。この峰に、多くの人を救う不動明王が現れると聞きました。他の山から来た、いわば『客人』の身ですが、その手助けをしたいと思って来たのです」

そう言うや、姫神はたちまち姿を消した。その後、和尚は念願の道場を建て、「無動寺」となづけた。そして何年かたった時、夢にあの姫神が現れた。「あれから久しく待っていましたが、あなたから、お招きがありません。なんとか私の望みをかなえてくださいませ」

夢からさめた和尚は、さっそく無動寺に小さな姫神のお社を建て、山菜をとってお供えした。そのお社は、今でも無動寺谷の本堂・明王堂の脇にある。また後には、お山のふもと、日吉社の境内にも、白山宮がつけられた。これは客人である姫神のお宮であることから、「客人宮(まろうどぐう)」とも呼ばれている。

3. 三面大黒さん(東塔・大黒堂)

最澄上人がはじめて比叡山にのぼり、道場を建てるにふさわしい場所をさがしていたとき、大黒さまが現れてこう言った。「あなたは仏教のとうとい道場を建てようとなさっている。私が守護神となって、その志をおたすけしよう」

これをきいた上人は、申し出に感謝しながらも、すこし心配なことがあってこう言った。「このお山は『一念三千』のことばにちなんで、いつかは三千の坊さんが修行する場所にしたいのです。大黒さまは一日に千人を養う大力の神さまということですが、それでも三千人を養うのには、力不足ではないでしょうか」

それを聞いていた大黒さまは「ならば三倍の力をもって見せよう」とばかりに、たちまち三つの顔と六つの腕をもつ姿に変身してから霧のように消えた。その恩にむくいようと、上人は三面六臂の大黒さんの像を刻み、お山の守護神として大切にまつた。

4. 割れた護法石(西塔・釈迦堂)

天暦6(952)年の初夏の夜、浄蔵と修入という二人の僧が、釈迦堂の前庭で神通力の対決をした。黒山の人だかりが取り巻くなか、二人は最初、じっとして動かない。すると浄蔵の念力により、大きな庭石が突然動きだし、二人の周りをびよんびよんと飛びはねた。すると修入が「これこれ、そうぞうしい。少ししづかにしておれ」というと庭石はびたりと止まった。

それから一方はこの石を動かそうと念じ、また他方はこの石を止めようと念じつづけた。二人が白熱の対決をくりひろげるうち、庭石は中ほどから二つに割れてしまった。それから、釈迦堂のそばにあるこの石は、今でも二人の霊力がこもっているとされ、仏の教えをまもるという意味で「護法石」とよばれている。